グループ名：早いメロス（仮）

クラス：M2A　学籍番号：16s21015 氏名：熊谷　洸介

論文要約論文名

　玉瀬 耕治・富平 美智子(2007), 大学生の「甘え」と友人関係, 帝塚山大学心理福祉学部紀要 3, 59-72.

1. 問題と目的

現状の問題

大学生の対人関係を考える上で、「甘え」の問題を取り上げることは発達心理学的的にも臨床心理学的にも興味深いものがある。土居(1971)が「甘え」の概念を提起して以来、国内外の研究者の間で「甘え」をめぐるさまざまな議論が展開されてきた。土居(1971)は、「甘えの心理は、人間存在に本来つきものの分離の事実を否定し、分離の痛みを止揚しようとする」と述べている。土居(2001)はその後、「甘えとは、人間関係において相手の行為を当てにして振る舞うことである」を再定義している。筆者らは、大学生における「甘え」について探求し、他社に対して甘えを求める（甘え欲求）と同時に他者からの甘えを受け入れようとする（甘え受容）ような「相互依存的な甘えを」より好ましい甘えとみなし、実証的にそのことを示してきた。

このような考え方を前提にして、青年期の友人関係を考えてみよう。人間関係の親密仮定に置いて重要視されるものに、友人の役割行動遂行が挙げられる。役割遂行について、下斗米(2000)は、自分が友人に期待している役割行動を友人が遂行してくれていると認知する時、両者の関係は安定して親密化が進むと考えた。

次に、良好な友人関係を構築する際のもう一つの要因として、自己受容の役割について考えてみたい。自己受容とは、ありのままの自分を受け入れることであり、心理学的健康の指標の一つとみなされている。自己受容が高い人は、他者に対して信頼や愛情を持った態度を取ることが出来る。また、他者と対立したり、他者に依存したりしない。さらに対人場面においてあまり孤独感を感じていない。板津(1994)

さらに、自己受容と親密に関連するものとしての友人の受容観についても取り上げてみたい。大出・澤田(1998)は、自己受容を高めるためには、重要な他者からのサポートを受け、自分を重要な他者の何らかの役に立っているという意識が必要であると考えている。したがって、自己受容が高まるためには、友人からの受容感を感じることが必要であり、その結果としての自己受容を媒介として、良好な対人関係が構築される可能性がある。

以上の研究動向をふまえ、「甘え」と青年期の良好な友人関係との関連について検討する。

1. 仮説

本研究では、概ね次のような過程をへて良好な友人関係は形成されると仮定した。

「相互依存的な甘え」→「友人の役割行動遂行」→「友人からの受容感」→「自己受容」→「良好な友人関係」。本研究では、このような過程を想定することがかのうであるかを検討した。

1. 方法

調査対象は、近畿圏の2っの大学に通う大学生191名（男性59名、女性132名）、平均年齢19．2歳（Sl）≡1．0）であった。

大学生を対象にして、「甘え」と「友人の役割行動遂行」「自己受容」「良好な友人関係」の関係が調べられた。測定尺度として、「甘え」にっいては「希求」「受容」「歪曲」「拒絶」の4つの下位尺度が用いられた。この尺度では、前の2尺度を合わせた「相互依存的甘え」と後の2尺度を合わせた「屈折した甘え」にっいて、主に他の尺度との関係が調べられた。r自己受容」尺度では「対人満足・生活の充実」「性格・能力の受容」の2っの下位尺度が用いられた。「良好な友人関係」尺度では「受動的友人関係」と「相互的友人関係」の2っの下位尺度が用いられた。

1. 結果

相関係数を算出し、パス解析を行った結果、「相互依存的甘え」は「友人の役割行動遂行」を促し、その結果が直接的に「良好な友人関係」を促す場合と、「友人の役割行動遂行」が「自己受容」を促し、その結果が「良好な友人関係」を促す場合があることが分かった。これらの結果に基づいて、青年期の友人関係を理解する手がかりと「甘え」に関する臨床心理学的意義が論じられた。

1. 考察

「甘え」の中でも「相互依存的甘え」は良好な友人関係の形成に重要な役割を果たしている。その際、「甘え」が強ければそれが直接的に良好な友人関係の形成に繋がるというよりも、むしろ「甘え」が「友人の役割行動遂行」を促し、それが「良好な友人関係」を構築するのに役立っと考えられる。ここでいう「友人の役割行動遂行」とは、友人が自分の期待する役割行動を遂行してくれているという認知である。また、「友人の役割行動遂行」は、当人の「自己受容」を促し、それが「良好な友人関係」を構築するのにも役立っている。

「自己受容」は「甘え」と直接関連するものではないが、「友人の役割行動遂行」によって高められ、結果として「良好な友人関係」の構築に寄与すると考えられる。「屈折した甘え」はどちらかと言えば「良好な友人関係」を阻害する傾向にあるが、有意な関係にはなく、それほど影響するものではない。